

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
心臓血管・消化器外科学

(旧第二外科学)

後期臨床研修医 専攻プログラム



鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科
心臓血管・消化器外科学

(旧第二外科学)

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35-1

Tel : 099-275-5368 Fax : 099-265-8177

E-mail : nigeika@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管・消化器外科学（旧第2外科）

後期臨床研修医・専攻プログラムのご案内

ご挨拶

皆さん、初めまして。私は鹿児島大学 心臓血管・消化器外科学(旧第二外科)教授の井本浩（いもと ゆたか）です。後期研修をめざす皆さんに当科をご紹介します。

我々の教室はその名が示す通り、大変幅広い疾患を扱う外科教室です。心臓血管外科では生まれたばかりの新生児から成人まであらゆる年齢層、あらゆる疾患を対象にしていますし、大動脈の緊急手術やステント治療も数多く行っています。また消化器グループは非常に難度が高いと言われる肝臓・胆道・膵臓の手術を中心に外科治療を行っています。一方、大学外では鹿児島市内をはじめ霧島市、薩摩川内市などに手術症例数の大きな関連病院がありますので、幅広い種類の疾患を数多く経験できます。大学と関連病院をローテーションすることにより外科専門医の取得、さらにはその先のサブスペシャリティの専門医資格の取得までスムーズに効率良く行えるのが若い人にとって大きな魅力と言えます。



最近外科医を目指す若い人が減少しておりますが、外科医の仕事は大変やりがいのある仕事であり今後益々その需要とステータスは上がっていくと思われまますし、若い人自身の中にも実は潜在的な外科希望者が多いということを耳にします。恵まれた環境で専門医取得を目指して働きたい人には当科がお勧めです。もちろん入局、大学院進学、学位取得など各人の持つ将来の目標、夢の実現のためにも力強くバックアップすることをお約束します。

少しでも興味を持った方はとにかく我々に声をかけてみてください。

基本概念と特徴

近年、医療は専門分化が著しく、若手医師の専門医志向が強くなっています。このことは、一方で医師と患者のコミュニケーションを大切にしたい、全人的な幅広い診療能力の欠如を生じる結果につながると考えられます。専門的な診療に当たる医師を含めて、全ての医師にこれらの分野でのプライマリ・ケアの対応能力が求められ、このような考えのもと新たな医師臨床研修制度が導入されました。初期研修終了後、外科に興味を抱く、あるいは専門性を追求したいと考える医師に対して、まずは外科専門医として必要な知識と技術を効率よく習得し、その先のサブスペシャリティへの円滑な誘導こそが、後期臨床研修で最も重要な研修の目標だと考えます。当科（鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学（旧第2外科））では、すでに初期臨床研修を終え、次なるステップを目指している若手医師へ、自らが希望する診療分野の専門的な知識・技術の習得と将来像を重視しながら、自己研鑽し教育できるシステムを設けました。

医師は所属科あるいは専門領域の如何に関わらず、全人的な治療を行えることが要求されています。過去において、外科系医師は頭頸部、胸部・腹部のすべての内臓疾患や、筋骨格系にわたり、広範な診断・治療に携わってきました。しかし現在は臓器別に専門分化し先進医療が注目され、これを目指す医師が増えているのも事実です。専門分化、特殊技能に対する偏重が顕著になった今こそ、外科系医師の原点に立ち返り、診療科横断的な基本的思考、手技、処置を重視する研修を積み、その先にそれぞれが目指す専門分野に進んでもらいたいと思います。

志とハートのあるみなさんを鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学（旧第2外科）後期臨床研修医として迎えることを心から楽しみにしています。

後期臨床研修医・専攻プログラムの概要

当科における後期臨床研修の目標は、初期研修終了後、外科に興味を抱き専門性を追求したいと考える医師に対して、外科専門医として必要な知識と技術を効率よく習得し、その先のサブスペシャリティ（心臓血管外科・消化器外科）専門医取得を円滑に行うことです。当科は心臓血管外科グループ、消化器外科グループがあります。2010年に呼吸器外科が独立しましたが、教育・研修に関する十分な連携体制を整えています。このような環境（総合外科的発想）のもとで、外科専門医資格取得に必要な各種検査と治療手技・診断・治療方針の決定、プレゼンテーション、検討、手術手技、患者管理方法の習得を行います。また救急医療に必要な知識と技術の習得も行います。臓器別に分かれた単科の診療科では、その専門性を強調することが多いですが、外科専門医を取得しなければその後続くサブスペシャリティへの道はありません。よって複数の診療部門を有する当科の後期臨床研修では、外科系医師の原点・基礎をまず構築し、その上で専門性を追求する方針としました。

後期臨床研修の対象

初期臨床研修終了者

後期臨床研修の期間

3年間（外科専門医に必要な最低年限、予備期間として4年間の研修も可能）

後期臨床研修の内容

後期臨床研修の第1の目標が外科専門医取得であり、外科専門医修練カリキュラムの内容を実践します。

◆ 1年目（卒後3年目）

大学病院あるいは研究教育関連施設において基礎研修を行います

◆ 2年目（卒後4年目）：研修1年目の知識・技術習得の上に2年目以降の研修を行います。

研究教育関連施設あるいは大学病院において基礎研修を継続しつつ、専門性の高い診療研修を行います。

これまでに手術経験、学会発表、論文発表など外科専門医受験に必要な資格を得ます。

※※予備試験（筆記試験）の受験資格を得る

◆ 3年目（卒後5年目）

研究教育関連施設あるいは大学病院において基礎研修を継続しつつ、専門性の高い診療研修を行います。

後期研修2年目（卒後4年目）で予備試験を合格し、到達目標を満たせば、認定試験となる面接試験を受験することができます。

◆ 《4年目》（卒後6年目）

外科専門医試験の到達目標が充足できなかった場合の予備期間。

研究教育関連施設あるいは大学病院において基礎研修を継続しつつ、専門性の高い診療研修を行います。

（外科専門医修練カリキュラムより抜粋）

※ 外科専門医受験資格には、日本外科学会の指定した外科専門医制度修練施設での一定以上の修練期間が必要で、卒後初期臨床研修期間を含んで「通算5年以上」となっています。

修練期間は修練開始登録を行った日付より厳密に算定され、登録以前に経験した手術症例などは一切認められません。ただし、卒後初期臨床研修期間満了後6カ月以内に修練開始登録した場合に限り、卒後初期臨床研修開始時まで遡って登録可能です。後期研修開始後すみやかに、日本外科学会への入会、修練開始登録を行います。

※※ 修練開始後満4年以上を経た段階で、予備試験となる筆記試験を受験することができます。

※※※ 修練開始後満5年以上を経た予備試験合格者は、後述の到達目標に示された最低手術症例数を充足した段階で、認定試験となる面接試験を受験することができます。

研修コース

1. 外科ローテート研修コース

心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科をローテートします。

総合外科的な観点から、広く基本概念や手技の習得を目標とします。

外科専門医修練カリキュラムの到達目標*に準拠した修練を行います。

このコースは、将来的に進む専門分野やまだ確定していない場合に向いています。

* (外科専門医修練カリキュラム 到達目標)

一般外科に含まれる下記領域の手術を実施することができる。

括弧内の数字は術者または助手として経験する各領域の手術手技の最低症例数を示す。

<1>消化管および腹部内臓(50例)

<2>乳腺(10例)

<3>呼吸器(10例)

<4>心臓・大血管(10例)

<5>末梢血管(頭蓋内血管を除く)(10例)

<6>頭頸部・体表・内分泌外科(皮膚, 軟部組織, 顔面, 唾液腺, 甲状腺, 上皮小体, 性腺, 副腎など)(10例)

<7>小児外科(10例)

<8>外傷(多発外傷を含む)(10例)

上記<1>～<8>の各分野における内視鏡手術(腹腔鏡・胸腔鏡を含む)(10例)

修練期間中に術者または助手として, 手術手技を350例以上経験する。

2. 心臓血管外科コース

外科専門医取得のためのローテートを基本とし、到達目標に準拠した修練を行います。研修期間の多くを心臓血管外科関連施設において研修を行い、心臓・大血管、末梢血管症例を多く経験することができるカリキュラムとしています。

将来、心臓外科(先天性・成人)、大動脈外科、末梢血管外科、血管内治療などを専門分野としたい希望がある場合に向いています。そして心臓血管外科専門医取得を念頭におき、心臓血管外科専門医認定のための臨床経験評価(<http://cvs.umin.jp/std/result3.html>)に基づき症例経験を重ねていきます。

心臓血管外科分野 経験症例: ASD、VSD、TAPVC、PAPVC、TOF、PA banding、B-T shunt、AVR、MVR、MVP、Maze、CABG、上行大動脈置換、弓部大動脈置換、下行大動脈置換、腹部大動脈置換、ステントグラフト内挿術(TEVAR、EVAR)、F-F bypass、F-P bypass、Distal bypass、PTA など。

3. 消化器外科コース

外科専門医取得のためのローテートを基本としますが、研修期間の多くを消化器外科専門医修練施設において研修を行い、消化管、肝胆膵、腹腔鏡下手術を多く経験します。

消化器外科分野：日本消化器外科専門医修練カリキュラムに準じ、到達目補（基礎的知識、診療技術、手術技術、医の倫理、生涯学習、医療行政）を主体として経験します。具体的な経験症例としては消化器外科専門医を視野に入れた下記事項を基本とし、外科専門医取得後概ね3年での取得を目指します。

日本消化器外科専門医修練カリキュラムより抜粋

(http://www.jsogs.or.jp/modules/gaiyo/index.php?content_id=53)

1. 手術難易度，到達度別必須症例数

次の3カテゴリーの手術数を必須とする。

カテゴリー1：（低難度手術;到達度1）として50例

カテゴリー2：（中難度手術;到達度2）として50例

カテゴリー3：（高難度手術;到達度3）として50例

難易度	到達度	経験例数
低難度手術	1	50例
中難度手術	1, 2	50例
高難度手術	1~3	50例

2. 必須主要手術および症例数

手術名	経験例数
食道癌の手術	3例
幽門側胃切除術	10例
胃全摘術	5例
結腸癌の手術	10例
直腸癌の手術	5例
腸閉塞の手術	3例
肝部分切除術	3例
肝2区域以上の手術	2例
膵頭十二指腸切除術	3例

後期臨床研修の研究教育関連施設

鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学（旧第 2 外科）を中心に、多数の関連施設、協力施設での研修を行う事ができます。

- ✚ 鹿児島大学病院〈心臓血管外科、消化器外科Ⅱ、呼吸器外科〉
- ✚ 鹿児島医療センター
- ✚ 鹿児島市立病院
- ✚ 鹿児島市医師会病院
- ✚ 鹿児島通信病院
- ✚ 川内市医師会立市民病院
- ✚ 霧島市立医師会医療センター
- ✚ 藤元早鈴病院
- ✚ 博愛会相良病院
- ✚ 薩摩郡医師会病院
- ✚ 肝付町立病院
- ✚ 県立宮崎病院
- ✚ 日南市立中部病院

研究教育関連施設の特徴

鹿児島大学病院の紹介



鹿児島大学大学院心臓血管・消化器外科学（旧第 2 外科）は、心臓血管外科、消化器外科の二つの診療科で構成されています。心臓血管外科は、先天性心臓外科部門、後天性心臓外科部門(虚血性心疾患、弁膜症、心臓腫瘍)、ステントグラフト治療を含む大動脈外科部門、ならびに血管内治療を積極的に取り入れた末梢血管外科部門があります。大学病院としての使命である教育研究にも力を入れ、先進医療についても積極的な導入を行っています。将来、心臓血管外科医を希望する方にとって、心臓血管外科すべての分野を網羅する事が可能で、専門医の取得にも有利です。

消化器外科分野は、消化器全般を守備範囲としつつ、肝胆膵外科を診療の柱としています。日本肝胆膵外科学会の高度技能修練施設 A に認定されており、高難度肝胆膵手術をはじめ、動門脈再建、門脈塞栓先行、補助循環などを併施した肝葉切除、進行胆道癌に対する肝膵切除、十二指腸温存膵頭切除、膵中央区域切除、中央区域温存膵切除、脾温存膵体尾部切除などの機能温存膵切除なども行っています。腹腔鏡下肝切除は、先進医療に認定

されており、肝胆膵外科領域に対する鏡視下手術も積極的に導入しています。研究は、大学院生を中心に、肝胆膵腫瘍のトランスレーショナルリサーチを主に展開しています。県内5つの消化器外科系基幹関連病院は教室から単独でカバーされ、年間2500例以上の一般消化器外科手術を行っており、いずれも外科および消化器外科修練施設に認定されています。各施設には専門医が配置され、消化器外科専門医は言うまでもなく、肝胆膵外科、内視鏡外科等の専門医取得に必要な十分な体制が、ハード・ソフト両面から整えられています。

昨年、当科から呼吸器外科が独立しましたが、症例数は九州でも屈指の多さを誇っています。研修についての相互協力体制が確立しています。充実した呼吸器外科分野の研修も安心して受けられます。

鹿児島医療センターの紹介



病床数370（ICU16、SCU6）、診療科16で循環器、脳卒中、がんの診療を行っています。各診療科が学会指定専門医修練施設に認定されており、一般外科は年間230例の手術（耳鼻科や婦人科、泌尿器科などとの共同手術もあります）、心臓血管外科は400例の手術を行い、それぞれ専門医修練基幹施設の認定を受けています。ともに同門であり、両科の研修を同時に受けることも可能です。小児外科や外傷症例はあまりありませんが、頸部から下の色々な

例を経験でき、また、開心術術後管理により呼吸循環管理に精通し、一般診療に活かすことができます。希望があれば内視鏡や超音波検査など、他科での短期研修も可能です。

鹿児島市立病院 外科の紹介



当科では年間約450例の手術を行っています。

消化器外科では消化管から肝胆膵まで幅広く行い、腹腔鏡下手術も内視鏡外科技術認定医の指導のもとで積極的に取り入れています。さらに、血管外科、乳腺外科、呼吸器外科領域でも専門外来

があり、手術を中心に診療経験を積むことができます。また、救命救急センターが充実化され、救急部との連携で外傷外科など救急疾患の手術・管理ができるのも特徴の一つです。後期研修では、これら全領域において、主治医、術者・助手として外科の基本から修練できる指導体制をとっています。最終的には大学との連携により3年間で外科専門医取得を目指します。

鹿児島市医師会病院の紹介



日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本肝胆膵外科学会高度技能修練施設 A、日本呼吸器外科学会関連施設に認定されています。

主な手術は下記の通りとなります。日本外科学会専門医取得に必要な一般外科手術はほぼ網羅しています。指導医・専門医の指導の下、手術経験に応じた主治医執刀

制をとっています。

【主な手術例】 年間 900-950 例、緊急は約 20%。うち悪性約 45%。*…腹腔鏡下含む				
悪性	胃*	結腸・直腸*	胆管	膵臓
	肝臓	肺*	乳腺など	
良性その他	胆嚢結石症*	腸閉塞	胃腸管穿孔	肺良性疾患*
	ヘルニア	虫垂炎*など		

鹿児島通信病院「消化器・肝臓病センター」の紹介



当院は鹿児島中央駅から甲突川を 3km ほど北上した所にある静かな文教地区の病院です。

昭和 42 年の開院ですが、今年 4 月、「消化器・肝臓病センター」を発足して以来、消化器、肝臓病を専門に診療する病院に特化している最中です。消化管内視鏡関係は、NBI、拡大内視鏡、超音波内視鏡、ESD の処置器械

など鹿児島で最高と言われる設備を整えました。また、肝疾患には最新式の IVR-CT 装置によるアンギオや TACE、さらには RFA などに積極的に取り組んでいます。開所後わずか 3 ヶ月ですが、内視鏡検査は上・下部あわせて月 200 例を超え、肝癌のアンギオと TACE も月 30 例近くになり順調に症例が増えています。外科の手術症例については今後少しずつ増加すると期待しています。

医療の進歩と共に外科には高度な医療機器を備えた手術室や ICU、さらには麻酔医や熟練看護師など多数のスタッフの協力を必要とするチーム医療の最たる領域となりました。そのため、外科医にとって必要な手術以外の技術習得が後回しになる恐れがあり、外科専門医修練カリキュラムに囚われない研修も大事だと思われます。その意味では当院で内視鏡やアンギオなどに触れる機会が多くなることは、技術習得の一つのチャンスだと思います。

川内市医師会立市民病院の紹介



当院の外科関連施設認定としては、まず厚生労働省より協力型臨床研修病院、鹿児島県よりがん診療指定病院を受けています。また、日本がん治療認定機構より認定研修施設、日本栄養療法推進協会より NST 稼働施設認定など、学会関係では日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本救急医学会救

急科専門医指定施設などの認定を受けています。

外科手術症例は年間 250-300 例で、消化器外科手術を中心として、大動脈を含む血管外科、肺癌を中心とする呼吸器外科、その他、乳腺外科、甲状腺などの内分泌外科など多岐にわたり経験ができます。また ASO に対しては積極的にステント治療を行っています。救急車搬入件数も年間 1400~1500 件を数え、交通外傷、消化管穿孔、イレウス、腹部大動脈瘤破裂など緊急手術症例も多彩です。さらに他科との連携も円滑で、救急医療の現場としても十分幅広いスキルアップにつながります。

霧島市立医師会医療センターの紹介



霧島山系に近く、ソニー京セラ等の大企業があり、街に活気があります。また鹿児島空港や九州自動車道に近く、JR 日豊本線など交通の便もよいです。

当院は霧島市が設立し、始良郡医師会が運営する公設民営型の病院で、病床 250 床（稼働 210 床）です。日本外科学会・日本消化器外科学会・消化器病学会・肝臓学会などの専門医取得が可能で、肝胆膵外科学会高度技能認定制度認定医修練施申請予定です。

消化器内科医、肝臓内科医と内科医が揃っており、CT（64 列）・MRI などの機器の充実に加え、専任の放射線科医師が常勤し、休日の読影にも対応可能です。また、胃・注腸透視、腹部エコーなどに精通した診療放射線技師が常勤しています。

【主な手術例】 年間 400-450 例（うち悪性約 140 例）				
悪性	食道	胃十二指腸	結腸・直腸	小腸
	肝臓	胆道	膵臓など	
良性その他	ヘルニア	虫垂炎	静脈瘤	気管切開など

基本的に主治医執刀制であり、未経験でも術前の準備がしっかりととなされていれば、執刀の機会はいつでもあります。胃腸疾患だけではなく肝胆膵領域・急性腹症などもふくめた幅広い領域の豊富な症例を経験できます。

当院外科は、旧国立霧島病院の時代から、今日の霧島市立医師会医療センターに至るまで、

40年以上に渡り、鹿児島大学医学部 心臓血管・消化器外科学（旧第二外科）と密に連携をとりながら、霧島市を中心とする始良郡医師会地域の外科治療を担っています。

外科、消化器外科、消化器病、肝臓などの各学会が認定する指導医・専門医などの資格を有する外科医が4名ほど常勤しており、胃腸疾患・胆石疾患を中心とした手術に加え、肝切除、膵頭十二指腸切除など難易度の高い手術にも積極的に取り組んでいます。特に、肝臓癌に対しては、常勤の肝臓専門医（内科・外科）を中心に、肝切除、局所療法（RFA）、TACEなど全ての治療が可能です。その他の消化器癌などもすべて、癌治療（診療）ガイドラインに沿った標準的な治療が行えるよう努力しています。

また、術前・術後を含めた癌化学療法については、内科系医師・外科系医師・認定看護師・薬剤師・栄養師など幅広い職種から構成される **cancer board** が定期的に関わり、最新の化学療法が安全に受けられるような体制になっています。外科疾患救急要請は基本的に断らない姿勢で、地域救急医療にも取り組んでいます（外科手術の30%は急患）。

今後、地域医師会とさらに連携を深め、地域の皆様に精度の高い外科医療を提供したいと思っています。

藤元早鈴病院 心臓血管外科の紹介



当院は都城市内にあり、鹿児島市と宮崎市のちょうど中間あたりに位置します。医療圏としては都城市を中心に曾於市、西諸県郡、小林市、北諸県郡、日南市、串間市などが含まれます。

当院は総合病院で、循環器病棟は心臓血管外科と循環器科合わせて約50床です。当院心臓血管外科の特徴はまず、心臓外科と血管外科がバランスよく研修できることです。スタッフ2名

で年間、開心術約40例、大動脈瘤約40例、末梢血管約40例、下肢静脈瘤約40例でほぼ均等に研修できます。また、2012年12月よりステントグラフト治療を開始しております。

地方の第一線の病院として一次救急から三次救急までこなしており、特に若手の研修医に向いていると思います。もう一つの特徴は、循環器科と共同で治療に当たっていることです。例えば急性動脈閉塞症の時、循環器科と一緒に手術に入り、塞栓除去後にカテーテル治療を行っています。希望があればカテーテル治療の研修も可能です。ぜひ研修にいらしてください。

社会医療法人博愛会 相良病院の紹介



当院は乳がん医療を中心に、女性のためのトータルケアを推し進めています。

特徴のひとつとしては、予防、検診から診断、治療、術後サポート、緩和ケア（ホスピス）と一貫した医療を行っており、がん診療指定病院にも認定されています。

診療科としては乳腺科、甲状腺科、放射線科、緩和ケア科、病理診断科、麻酔科、婦人科があり各科とも専門医が常勤で勤務しており、指導体制を整えています。

乳癌手術件数（年間約 600 例）は全国上位であり、国内ではトップレベルです。手術は乳房温存手術（約 450 例（温存率約 75%））やセンチネルリンパ節生検（約 77%）を標準治療としており、また整容性を重視した乳房再建術（約 20 例）も行っています。また、甲状腺手術（甲状腺癌、甲状腺腫、バセドウ病）は年間約 80 例です。

県外のがん専門施設とのウェブカンファレンスを毎月定期的に行い、最新情報に関するディスカッションをしています。治療方針についてはエビデンスに基づいた治療を行っており、手術療法だけでなく薬物療法、放射線療法を含めたオンコロジー領域全体を勉強することが出来る環境となっています。また、国内外における多施設共同の臨床研究や新規薬剤の治験も数多く行っており、最新の治療に接する機会もあります。

日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本乳癌学会認定研修施設、日本緩和医療学会研修認定施設であり、多くの症例を経験できるため認定医や専門医を比較的容易に取得することが出来ます。また当院医師はみなモチベーションが高く、学会発表や論文の発表も精力的に行っています。是非、当院で一緒に仕事をしましょう。

後期臨床研修終了後の進路

鹿児島大学で外科の後期研修をするという事の目的は、外科専門医を取得し、一人前の外科医となることですが、同時に鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学（旧第2外科）に永久就職するという意味もあります。そして、そこには生涯を通じて喜び、悲しみを分かち合える仲間との出会いや、一生の宝となるであろう先輩指導医との巡り会があります。そして将来教授、診療部長、院長というキャリアパスを築く場所でもあります。初期研修と違って、後期研修には前述の通り就職のような側面がありますので、目先の待遇、条件やブランドイメージなどで「使い捨てレジデント」扱いされないような施設選びをすることが大事です。我々は、個々の医局員や研修医が、村社会あるいは家族のように、損得勘定抜きでお互いを助け合えるような、心と心の結びつき（絆）、友愛を基本とします。また女性外科医が、出産、育児をしながらでも外科医を続け、キャリアアップしていくことができるようなサポート体制もすでに構築されています。

後期研修開始時に、当科に永久就職（=入局）しても良いでしょうし、研修終了時まで保留してもかまいません。我々としては、後期研修医として仲間となったからには一生面倒を見る覚悟です。研修終了後、さらに別の施設で研鑽を積みたい場合にも支援します。また将来開業や他施設へ離れる際にも最大限の応援をします。

専攻プログラムの概要

1. 基礎研究コース

外科専門医取得後（初期研修終了後3～4年 [卒後5～6年]）、順次希望する専門分野に応じて大学院へ入学し、各専門分野（心臓血管外科、消化器外科）の研究および学位（博士）を取得します。研究は大学内の臨床研究施設および基礎系講座と共同研究として行います。学位はサブスペシャリティ専門医と平行して取得することも可能です。

2. 専門臨床コース

大学院において、各専門分野の研究および学位（博士）を希望しない場合は、サブスペシャリティ（心臓血管外科、消化器外科）専門医取得のために、さらに専門的なトレーニングを行います。

後期臨床研修の待遇

- (1) 身分 大学病院の医員（非常勤職員）
- (2) 給与 月額概ね 350,000 円（税込み）を支給（諸手当は別途支給）
- (3) 保険 社会保険、雇用保険の適応あり

当直業務

大学病院：平日 月 2 回、土日祝日 月 1 回
（各研究教育関連施設によって違いあり）

後期臨床研修指導者

井本 浩

後期研修に関する施設見学

随時対応いたします。下記にお問い合わせください。

所在地および募集に関する問い合わせ先

〒890-8520

鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8 - 3 5 - 1

鹿児島大学大学院 心臓血管・消化器外科学（旧第 2 外科）

医局長：荒田 憲一 E-mail：arata@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp

医局秘書：値 明子、生駒 美幸

医局 E-mail：nigeka@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

電話：099-275-5368

FAX：099-265-8177

ホームページ：<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~surgery2/>

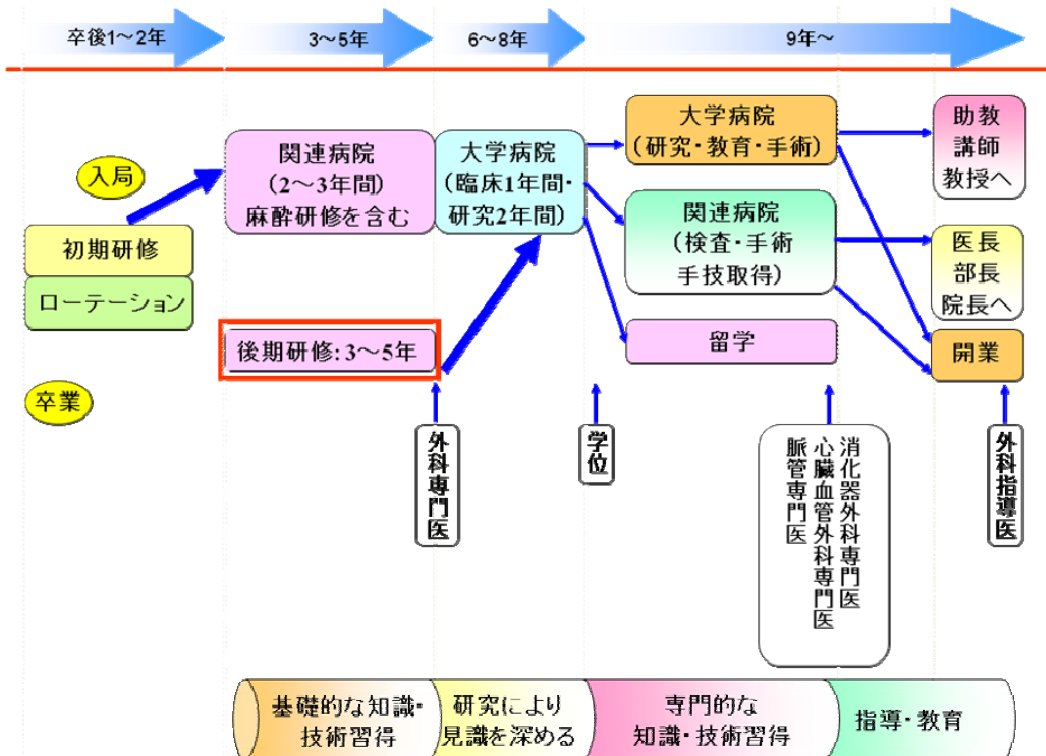
回診・カンファレンスなどの週間スケジュール (鹿児島大学病院での研修)

第二外科臨床修練スケジュール

	教室	学生一週目	学生二週目			
月	術後報告および術前検討会 手術 消化器カンファレンス	8:10~ 8:00~ 18:00~	術後報告および術前検討会 オリエンテーション 手術見学・参加	8:10~ 8:30~ 9:00~	術後報告および術前検討会 手術見学・参加	8:10~ 9:00~
火	術後報告および術前検討会 検回診 循環器カンファレンス	8:10~ 10:00~ 18:00~	術後報告および術前検討会 検回診 臨床講義	8:10~ 10:00~ 14:00~	術後報告および術前検討会 検回診 臨床講義	8:10~ 10:00~ 14:00~
水	手術 医局会 血管外科カンファレンス	9:00~ 18:00~ 19:00~	手術見学・参加	9:00~	手術見学・参加	9:00~
木	術後報告および術前検討会	8:10~	術後報告および術前検討会 実習(教授 wet lab)	8:10~ 13:00~	術後報告および術前検討会	8:10~
金	術後報告および術前検討会 手術	8:10~ 9:00~	術後報告 手術見学・参加	8:10~ 9:00~	術後報告および術前検討会 手術見学・参加 教授講義	8:10~ 9:00~ 12:00~14:00

- ・教室の結業は8時10分とする。(集合場所は医局とする)
- ・学生には病棟の患者を担当させ、主治医を指導医としてつける。教管及び主治医の監督下で実習する。
- ・診療行為及びカルテの持ち出しは厳禁する。
- ・第2週の金曜日までにレポートを提出する。
- ・学生にはできるだけ手術への参加を考慮する。
- ・月曜日は午後4時より消化器カンファレンスがある。
- ・火曜日は午後6時より院内外参加の循環器カンファレンスがある。
- ・水曜日は午後7時より放射線科との合同血管外科カンファレンスがある。

初期・後期研修からキャリアアップの流れ



後期臨床研修・修練コースのスケジュール

